

日本科学者会議  
福岡支部ニュース  
No.288  
2024年10月20日発行

●日本科学者会議事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15  
Tel: (03) 3812-1472

●福岡支部事務局

〒813-0021 福岡市東区みどりが丘3-11-5  
小早川義尚 気付け  
<E-mail> fukuoka@jsa-fukuoka.sakura.ne.jp  
<郵便振替> 福岡 01790-1-5576  
<支部HP> <http://jsa-fukuoka.sakura.ne.jp/index.html>

目次	ページ
1 第25回総合学術研究集会のお知らせ	1
2 JSA九州・沖縄地区シンポジウム(佐賀)のお知らせ	3
3 福岡支部会談話会報告(2024/09/28)	4
4 福岡核問題研究会の報告(2024/08/24, 2024/10/05)	6
5 例会等の案内	8
5-2 『日本の科学者』11月号読書会(中止)	
5-3 『日本の科学者』12月号読書会 <特集> 「現代社会が求める博物館」	

1. 第25回総合学術研究集会のお知らせ

下記の内容で第25回JSA総合学術研究集会が11月末からオンライン開催されます。会員の皆さん、周りの皆さんにも声をおかけの上ふるってご参加下さい。

最新情報、参加申し込みは、<https://www.cc.mie-u.ac.jp/~admin-law/25so-gaku/25so-gaku.htm> にアクセスをお願いします。

平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために  
—市民として科学者として今、私たちにできること—  
2024年11月23日(土)~12月8日(日) オンライン開催

A 戦争のない平和な時代を拓く

【A1】平和問題分科会

開催日時:2024年12月7日(土) 13:00--18:15

連絡先: [kameyama@agr.u-ryukyu.ac.jp](mailto:kameyama@agr.u-ryukyu.ac.jp)

【A2】九条改憲の動向の多角的検討

開催日時:2024年12月8日(日) 9:30--12:00

連絡先: [m-office@9jo-kagaku.jp](mailto:m-office@9jo-kagaku.jp)

【A3】米日のグローバルパートナーシップの構築と世界の戦争に抗する平和の理論と運動を語ろう

開催日時:2024年12月1日(日) 15:45--18:15

連絡先: s.nakano@d012.dant2.jp

## **B 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興**

【B1】PFAS(有機フッ素化合物)汚染を考える

開催日時:2024年11月24日(日) 15:45--21:00 設置責任者:畑 明郎(滋賀支部)

連絡先: hata.akio@gaia.eonet.ne.jp

【B2】気候危機に立ち向かう-自然エネルギーと省エネの社会に向けて

開催日時:2024年11月30日(土) 13:00--18:15

連絡先: m.utagawa@nifty.ne.jp

【B3】脱原発への課題と展望

開催日時:2024年11月24日(日) 9:30--12:00

連絡先: masahiko@mbp.nifty.com

【B4】地域社会から考える能登半島地震復興

開催日時:2024年12月1日(日) 9:30--12:00

連絡先: hajime@cc.kogakuin.ac.jp

【B5】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part 8)

開催日時:2024年11月30日(土) 13:00--21:00

連絡先: matsunaga\_mitsushi@hotmail.com(松永光司)

【B6】風力発電の課題を考える。

開催日時:2024年11月30日(土) 9:30--12:00

連絡先: stern8@mac.com

## **C 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生**

【C1】群馬県に居住する外国人が抱える諸問題 — 多文化共生社会・移民社会の実現可能性

開催日時:2024年12月7日(土) 9:30--12:00

連絡先: rocky\_4785@yahoo.co.jp(藤井正希)、s-nagata@tcue.ac.jp(永田瞬)

【C2】新型コロナウイルス感染症の現状と今後に向けての課題

開催日時:2024年12月7日(土) 18:30--21:00

連絡先: shiina.takahiko.a0@f.gifu-u.ac.jp

【C3】全国一律の最低賃金1500円をめざして

開催日時:2024年11月24日(日) 13:00--15:30

連絡先: myoneda330@gmail.com

【C4】高齢者福祉の現状とこれから~介護福祉学への展望

開催日時:2024年12月1日(日) 13:00--15:30

連絡先: fumiki24@gmail.com(石田 史樹)

## **D 科学・技術の現状批判と課題**

【D1】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part16

開催日時:2024年12月1日(日) 13:00--18:15

連絡先: to4ksmt@yahoo.co.jp

【D2】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 17

開催日時:2024年12月7日(土) 15:45--21:00

連絡先: matsunaga\_mitsushi@hotmail.com

【D3】自然科学の進展を俯瞰するIII

開催日時:2024年11月30日(土) 9:30--12:00

連絡先: aoki.wako@gmail.com

## E 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

【E1】いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える

開催日時:2024年11月30日(土) 15:45--18:15

連絡先: kiyoni03@yahoo.co.jp

【E2】高等教育政策の現状分析とその改革の方向性

開催日時:2024年11月24日(日) 13:00--15:30

連絡先: ishii.kiyoshi@shizuoka.ac.jp

【E3】高等教育「無償化」の現在地-誰もが安心して学び続けられる社会に

開催日時:2024年12月1日(日) 9:30--12:00

連絡先: kkawa@shc.usp.ac.jp

## F 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

【F1】フェミニスト・エスニック・スタディーズとDEI (Diversity, Equity, and Inclusion):平和に  
必須の多様性と公平性と包摂

開催日時:2024年12月7日(土) 13:00--15:30

連絡先: hchung@okayama-u.ac.jp

【F2】不登校・社会的ひきこもり

開催日時:2024年12月1日(日) 15:45--18:15

連絡先: idak@fc.ritsumei.ac.jp

【F3】学習権を問う~様々な学びからの検討

開催日時:2024年12月1日(日) 18:30--21:00

連絡先: marimarinon123@gmail.com

## G 市民社会その他

【G1】市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望

開催日時:2024年12月7日(土) 13:00--18:15

連絡先: jjs2007@jsa.gr.jp

【G2】二次元から「世相」をつむぐ

開催日時:2024年11月23日(土)18:30--21:0

連絡先: mlaplus20150113@gmail.com

【G3】転換期の主体としての地域、地域住民を考える~その自由な学習と個性、主体性のあり方を問う

開催日時:2024年11月30日(土) 13:00--15:30

連絡先: kenjiwt@rio.odn.ne.jp

【G4】アメリカの現状と今後を考える

開催日時:2024年12月7日(土) 13:00--18:15

連絡先: hhonda@dokkyo.ac.jp

## 2. JSA九州・沖縄地区シンポジウム(佐賀)のお知らせ

今年のJSA九州・沖縄地区シンポジウムは、久々に対面で開催（オンラインも併用）されます。佐賀支部の担当で、下記のように佐賀市内で開催されます。福岡支部幹事会では、近隣の地域と言うこともあって会員の皆様にできれば対面での参加を呼びかけます。参加を希望される方は、下記の案内に従って申し込みをお願いします。

また、対面での参加を希望される方には旅費（必要な場合は宿泊費）を支部財政から補助しま

す。fukuoka@jsa-fukuoka.sakura.ne.jpまでご連絡ください。

**日本科学者会議九州沖縄シンポジウム2024**  
～佐賀から見える日本の平和と暮らしへの深刻な脅威を科学する～

佐賀はいま、暮らしと平和を脅かす様々な脅威を抱えるホットスポットとなっています。その主要な3つの課題を取り上げ、科学者と市民が共同して問題解決の方向を探ります。

日程 : 11月10日(日)10:00～16:45

開催形式 : 現地開催(オンライン参加併用)

会場 : メートプラザ佐賀2階大会議室(佐賀市兵庫北3丁目8-40)

<https://www.city.saga.lg.jp/main/892.html>

駐車場 : 建物周辺に約30台分、道路を挟んで約300台分あります(無料)。

参加費 : 無料(会員・非会員とも)

参加申込 : 現地参加・オンライン参加ともに事前申込みが必要です。

下記 URL または右の QR コードから申し込んでください。

<https://forms.gle/K6W51SUpX2jyqjSE6>

申込み締切 : 11月5日(火) 23時59分



**【プログラム】**

**10:00～10:15 開会挨拶 :** 半田 駿(日本科学者会議佐賀支部事務局長)ほか 15 分

**10:15～11:45 第 1 部 佐賀空港のオスプレイ基地化と戦争準備をめぐって**

講師 : 蒲原嘉一氏(オスプレイ裁判支援市民の会、川副町在住) 50 分

コメンテーター : 池崎基子氏(オスプレイ配備反対佐賀県連絡会事務局長) 20 分

質疑応答 20 分

**11:45～13:00 昼食** (付近には歩いて行ける飲食店がありません。)

希望者にはお弁当(予約制・お茶付きで1,000円\*)を用意します。

\*当日、受付にてお支払いください。

自家用車の方は車で10分以内に多くの飲食店があります。

**13:00～14:30 第 2 部 有明海訴訟をめぐって**

講師 : 林田直樹氏(よみがえれ有明訴訟事務局) 50 分

コメンテーター : 速水祐一氏(佐賀大学農学部・沿岸海洋学) 20 分

質疑応答 20 分

**14:45～16 : 15 第 3 部 玄海町の地層処分問題をめぐって**

講師 : 東島浩幸氏 (佐賀中央法律事務所弁護士) 50 分

コメンテーター : 山北 聡氏(宮崎大学教育学部・地質学) 20 分

質疑応答 20 分

**16:15～16:45 交流会** (各県支部の紹介・自己紹介など)

\*前日 11月9日(土)19時～20時30分に佐賀駅近くで懇親会を開催します。

参加費 4,000円(当日、会場にてお支払いください)。

参加申込みは上記 URL またはQRコードからお願いします。

申込み締切 : 11月5日(火) 23時59分。

\*宿泊:各自で予約してください。週末でもあり混んでいますのでお早めをお願いします。

【連絡・問合せ先】日本科学者会議佐賀支部 染谷 孝 someyat@cc.saga-u.ac.jp

**3. 福岡支部会談話会 (2024/09/28) 報告**  
**マイナンバーシステムは正常に稼働するか？**

政府は2024年12月2日に現行の健康保険証の新規発行・再発行を終了し、保険証をマイナンバーカードに統合するとしています。しかし、情報システム学会 (<https://www.issj.net/>) はマイナンバーシステムそのものについての懸念を表明し、全国保険医団体連合会 (<https://hodianren.doc-net.or.jp/>) はマイナンバー保険証に関する多数のトラブルを報告しています。この先、マイナンバーシステム、マイナンバー保険証は正常に稼働するのでしょうか。福岡支部では情報システム学会が発表した提言を参考に意見を交わす場を設けました。

少し話は遡ります。2006年に誰のものか不明な年金記録があることが判明し、当時、社会保険庁に様々な不備もあったことから、社会保険庁そのものが廃止になりました。データの統合に失敗した年金記録の一部は今も宙に浮いたままです。

---

・2007年2月に社会保険庁は基礎年金番号への過去記録の統合・整理等を進めるとしたが、2006年6月時点において、コンピュータに記録（年金番号）があるものの、基礎年金番号に統合・整理されていない記録が約5000万件（厚生年金番号4000万件、国民年金番号1000万件）あることが判明し、社会保険庁が年金記録をきちんと管理していないことが指摘された。

・納めたはずと主張する国民年金保険料の納付記録が、社会保険庁のデータ（年金記録）や自治体の台帳に記録および記載されておらず、保険料の領収書を残していなかったことで客観的な納付証明ができず納付と認められないケースや、給料から天引きされていたはずの厚生年金保険料の納付記録（被保険者記録）が、社会保険庁のデータにないことが判明したケースがあった。

---

（Wikipedia, 年金記録問題から抜粋）

この年金記録問題が発生した原因等について、情報システム学会の会員の方が参加した座談会の記録を見ることができます。

---

#### 情報社会の新たな課題～消えた年金のシステム問題～

- ・私は、官公庁のITシステムに関しては、アウトソーシングという視点から見たときには第2、第3の年金問題のようなトラブルが出てくる可能性が、ものすごく高いと思っています。
- ・大量の不良データがあることが分かっているという事実ですね。オンライン化の前に分かったのにそのままシステムに載せてしまった。
- ・異動などによってどんどん不明データが増えるしくみになっていたんです。ただしこの問題は、今回の場合は大きな問題になったんですけれども、絶対的な問題ではない。データさえ正確だったら。直しは全部できますから、大丈夫なんです。
- ・おっしゃりたいのは、その間にシステムのデータ不備を直すチャンスがあったけれども、やらなかったという話ですね。

---

（TECH.ASCII.jp, 「情報システム学会・年金記録管理システム問題検討プロジェクトチーム」座談会（2010/04/26）, <https://ascii.jp/elem/000/000/506/506722/> より抜粋）

情報システム学会は、今回のマイナンバーシステムにおいても懸念を表明し、提言を行なっています。

- ・「マイナンバー制度の問題点と解決策」に関する提言（2023/10/10）
  - ・「マイナンバー制度の問題点と解決策」に関する提言の補足（2024/07/03）
- （情報システム学会 社会への提言など, <https://www.issj.net/teigen/teigen.html>）

2023年の提言において「マイナンバー制度の根本的な設計不良に起因して発生する問題」があると指摘しています。

1. マイナンバー制度で実現させようとしていることが多すぎる問題。

## 2. 誤った名寄せの問題（準備不足）

（名寄せ：複数のデータソースから、同一の個人のデータを取得し連携してまとめる作業）

1. に関しては、マイナンバーカードに保険証、免許証の統合を目指し、取扱等に齟齬をきたしています。以前の住基カードは用途が限られたことが失敗の原因とも言われており、マイナンバーカードでは様々な用途に使用可能になるとしています。

2. については、マイナンバーを特定個人情報としたため名寄せ用の番号として使えなくなりました。現在は「氏名、（フリガナ）、性別、生年月日、住所」を用いて名寄せを行なっていますが、歴史的変遷を重ねた文字コード、外字、漢字の異字体の問題は解決していません。マイナンバー保険証の照合において漢字が●で表示されるのは、文字コードや外字の問題が解決されていないためと思われます。氏名のフリガナが法律的に戸籍に登録されるのは、来年、2025年5月以降です。根本的な準備不足が指摘されています。

現在、「地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化」作業を行なっています（デジタル庁、総務省）。複雑化・老朽化・ブラックボックス化した既存システム対策として、2025年度末を期限に地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化を推進しています。しかし、自治体、ベンダーの対応が間に合わず、大幅な作業の遅れが報道されています。こちらも準備不足が危惧されます。

（文責：中野）

## 4. 福岡核問題研究会の報告（2024/08/24, 2024/10/05）

この間に以下の研究会8月例会と9月例会が開かれた。

<福岡核問題研究会8月例会>

日 時：8月24日（土）10：00～12：00

話 題：「原爆の父」ロバート・オッペンハイマーについて

話題提供：三好永作

<福岡核問題研究会9月例会>（日程調整で開催が10月にずれ込んだ）

日 時：10月5日（土）10：00～12：00

話 題：原発運転停止裁判における水蒸気爆発問題の再整理

話題提供：中西正之氏

8月例会では、「原爆の父」ロバート・オッペンハイマーについての話題提供があった。オッペンハイマーが広島と長崎の被爆者に公式に謝罪した記録は存在しない。しかし、6月20日にNHKが放送したのによると、被爆者と面会した際、オッペンハイマーが「涙を流して謝った」と立ち会った通訳が証言している映像が見つかったという。1964年に被爆者（物理学者・庄野直美氏を含む）などが証言を行うために米国を訪問したとき、通訳として同行したタイヒラー曜子さんが2015年に語った内容を記録した映像資料が、広島市のNPOに残されていた（注1）。このとき二人の被爆者と面会したオッペンハイマーは、「ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい」とぼうだの涙を流して謝ったという。藤永茂氏によると、オッペンハイマーにとっては人間と人間の関係が大事であったという（注2）。

オッペンハイマーは、1904年4月22日、米国ニューヨークで生まれた。父は青年実業家、母は画家で両親ともユダヤ教をはなれたユダヤ人であった。1911年9月に裕福な家庭の子どもたちの学校で、宗教信仰に依存しない倫理体系で教育する私立学校「倫理文化学園」に入学し、1921年にその高等部を卒業した（17歳）。

大腸炎で自宅療養したため、同年秋の大学進学が不可能となる。1922年9月にハーバード大学化学科に入学し、1925年6月に4年の学部課程を3年でしかも「最優等」で卒業した。オッペンハイ

マーは1923年5月（大学1年生の時）に物理学の教授に学部の物理学教程の単位を取るることなしに大学院の教程の受講許可を求める申請書を出している。そこには既に読んだ物理学書を15冊（ポアンカレ『現代物理学』、ギブス『非均一系の平衡論』、ジーンズ『気体運動論』、ゾンマーフェルト『原始構造とスペクトル線』など）をあげていた。この申請は6月6日の物理学教室の会議で許可された。後年、オッペンハイマーはその教室会議である教授が「もしこれらの本を読んだというのなら、この男が嘘つきだということは明らかだが、これだけの本の題名を知っているというだけで博士号ものだろう」と発言したという話を聞かされたことがあると語っている（注2）。

1926年ボルンのゲッチンゲン大に招かれる。そこで1927年3月に博士号を授与され、「分子の量子理論について」という題名の論文（1927年8月受理）を書き上げてボルン・オッペンハイマー近似という分子の量子理論で重要な基礎を築いた。

1929年秋にカリフォルニア大バークレー校（UCB）とカリフォルニア工科大（Caltech）の両方の掛け持ち助教授となる（25歳）。秋からクリスマスまでバークレーで量子力学の講義を行い、年が明けるとパサディナ（Caltech）に居を移し、そこでまた1学期分の講義をする。多数の大学からの誘いがあったが、2年の就任でよいことでこれらを選んだという。もう一度、ヨーロッパで研究することを強く望んでいた。

オッペンハイマーの研究グループは、8～10人の大学院生と半ダースほどのポスドクからなる。彼の部屋で一人ずつ研究の進み具合について議論することになる。彼は、電磁力学、宇宙線、宇宙物理学、核物理学などあらゆる分野に興味を示した。グループは、バークレーでの彼の講義が年末に終わると、彼と共に渡鳥のようにパサディナに移り住んだ。

1943年、ロスアラモス国立研究所の初代所長に任命され（39歳）、原爆製造の研究チームを主導した。1945年7月16日に人類初の爆縮型原爆実験に成功し、同8月に広島と長崎に原爆が使われる。1947年にはプリンストン高等研究所所長に任命され（43歳）、1966年まで務めた（62歳）。

1954年4月12日、「赤狩り」の中で休職処分（事実上の公職追放）を受ける。しかし、2022年12月16日、米エネルギー省長官は1954年の処分は「偏見に基づく不公正な手続きであった」として取り消した発表した。1967年2月に喉頭がんでこの世を去る。

「オッペンハイマーは一流の物理学者ではなかった」との評価に対する反論や、「オッペンハイマーはプルーデンス（prudence）を持たない男であった」との評価についてはここでは省略する。prudenceは「慎重」や「思慮深さ」を意味するが「抜け目のなさ」や「ずる賢さ」との意味もある。ここでは後者の意味で使っている。また、「原爆投下で日本を降伏させたオッペンハイマーは英雄か」という問いに対する回答も興味がある。これらについては長くなるので、核問題研究会のホームページにある8月24日の発表資料をご覧ください。

9月例会は、日時の調整の関係で9月中には設定できず10月5日に行われた。「原発運転停止裁判における水蒸気爆発問題の再整理」というテーマで中西正之氏に話題提供を頂いた。

2011年3月の福島原発事故直後から日本国内で原発の再稼働に反対する原告団により、各地の地裁において原発運転停止裁判の仮処分訴訟が多数行われるようになった。事故直後には、地裁による原発運転停止判決が出され、再稼働したばかりの原発が一時期運転停止をせざるを得ない状況もあった。しかし、2012年12月の第2次安倍政権の発足以来、原発再稼働推進策が進められ、それが裁判所にも影響するようになり、原告敗訴の判決が続くようになった。

新規制基準の策定においても、福島事故で認定された事故原因については対応を立てるが、それ以外の国際原子力機関（IAEA）の大切な4層、5層の深層防護は無視された。ヨーロッパでは最重要項目の一つとされている水蒸気爆発対策問題が、新規制基準では全く欠落している。高島・後藤論文（注3）は、「水蒸気爆発は溶融物に水をかけても発生するが水プールに溶融物を落とす方がはるかに発生しやすい。しかし、九州電力、関西電力、四国電力ではシビアアクシデント対策として、溶融燃料を水のプールに落下させて冷却する方法を採用している。これは水蒸気爆発を発

生させる可能性が高く、自殺行為と言わざるを得ない」と述べて、水蒸気爆発の危険性について警鐘を鳴らしている。

関西電力は、大飯原発・高浜原発運転停止裁判で「IAEAの深層防護の1～3層までの安全対策を万全におこなっている。したがって、第4、5層の安全対策は必要ない」と主張し、深層防護についての無知を曝け出している。経済協力開発機構（OECD）は明らかに原発推進勢力の1つであるが、SERENAプロジェクトを立ち上げ水蒸気爆発についての対策をどう立てるかについて真剣に取り組んでいる。この姿勢を日本の原発推進勢力は見習うべきではないか。

水蒸気爆発の危険性について、裁判所は「原子力規制委員会が適合審査について、水蒸気爆発の危険性がないと判定しているので、弁護団の主張するような大変な危険性はないと判断した」と説明している。

2017年の玄海原発再稼働禁止仮処分申立事件における補充書面8「水蒸気爆発対策の不備」において原告弁護団は「玄海原発3・4号機においては水蒸気爆発の起こる可能性が否定できず、格納容器破損防止のためには、水蒸気爆発の対策を講じる必要がある」、「（九電は）水蒸気爆発の起こる可能性が極めて低いとして対策の必要性自体を否定している」、「再稼働を許せば、過酷事故時に放射性物質が大量かつ広範に拡散することを防ぐことができない」と結論している。

これまで電力会社は、水蒸気爆発が実際に発生したTROI実験やKROTOS実験では、外部トリガーを使った時のみ水蒸気爆発が起きたことを理由に、実際の過酷事故時には、そのような外部トリガーはないのだから、過酷事故時には水蒸気爆発は起きないとして、原発周辺住民や国民を欺いている（過酷事故時に水蒸気爆発のトリガーとなる事象が発生しないと誰が断言できるのか）。

玄海原発差止等請求事件における準備書面「水蒸気爆発についての補充主張」（2022年9月22日）によれば、スウェーデン王立工科大学（KTH）は水プール内での熔融物広がり実験を、PULiMS装置（注4）を用いて行い、有効な実験5回のうち、3回で層状の水蒸気爆発が自発的に発生したという。外部トリガーがなくても水蒸気爆発は自発的に発生し得るということである。電力会社や原子力規制委員会は真剣な水蒸気爆発対策が必要となろう。

（注1）<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240620/k10014486571000.html>

（注2）藤永茂『ロバート・オッペンハイマー 愚者としての科学者』（ちくま学芸文庫、2021年）

（注3）高島・後藤「原子炉格納容器内の水蒸気爆発の危険性」、『科学』Vol.85, pp.897-905 (2015)。

（注4）PULiMS: Pouring and Underwater Liquid Melt Spreadingの略

（報告者：三好永作）

## 5. 例会等の案内

### 5-1 『日本の科学者』11月号 読書会

11月11日に予定していた読書会は中止とします。

### 5-2 『日本の科学者』12月号 読書会

日 時：2024年12月16日（月）14:00～16:30

内 容：『日本の科学者』12月号＜特集＞「現代社会が求める博物館」

この読書会は、行うとすれば以下のようにZOOMによるオンラインで行うことにします。

11月の末日までに誰がどの論文を担当するかについてメールで連絡しましょう。

ZOOM情報

<https://us04web.zoom.us/j/8151516469?pwd=N1dydmMxTk85eVRkenNxUFhJUE1YUT09>

ミーティングID: 815 151 6469

パスワード: 3KsYt4